

営業概況

情報通信事業

アンリツグループの強みである、IPネットワーク技術を活用した高品質なソリューションを提供するとともに、コスト削減に向けた取り組みを一層強化していきます。



したことにより、70百万円(同7.3%減)の黒字を確保しました。

今期の事業戦略と業績見通し

官公庁市場は、設備投資抑制も予想され厳しい市場環境が想定されます。こうしたことから、前期に引き続き、受注案件の選別とプロジェクトのコスト管理を徹底するとともに、戦略プロジェクトである減災コミュニケーションシステムの普及に向け市場拡大に努めます。

また、民需市場については、主要製品の帯域制御装置はネットワークの効率化を図れることから、セキュリティや通信品質の需要に加え、グリーンIT^{注1}などへの需要も期待できます。さらに、2009年5月には、多くの企業システムに現存するアナログ回線をIPネットワークに接続できるアナログ回線IP多重化装置 NN6001Aを開発し、販売に注力しています。今後、当事業の主力を担う民需市場については、IPネットワークソリューションの競争力強化やシステムインテグレータとの協業をさらに推進し、取り組みを強化していきます。

今期の当事業の売上高は、厳しい市場環境の中で50億円(当期実績の3.9%減)、営業利益は、さらなる原価低減を推進し、プレークイブ(同70百万円減)を予定しています。

業界動向と当期レビュー

当事業は、主力である官公庁市場に向けて、河川の映像監視システム、テレメータの遠隔監視システムなどを中心に、社会インフラ関連のソリューションを提供しています。国内の公共投資は、防災や通信システムのIP化に関する需要はあるものの、全体として減少傾向にあります。

民需市場は、通信オペレーターやインターネットサービスプロバイダーなどに向け、映像配信ソリューションなどを提供しています。また、トラフィック増大による品質劣化を防ぐため、IPネットワークのサービス品質を確保する帯域制御装置の需要が拡大しています。

当期は、自治体向けの遠隔監視システムや民需市場は堅調に推移したものの、入札競争が厳しさを増す映像監視システムの売上が振るわず、売上高は52億円(前期比9.5%減)となりました。営業利益は、受注案件の選別とプロジェクトのコスト管理を徹底

注1: グリーンIT

環境配慮の原則をITにも適用したもので、IT製品製造時の有害物質含有量の最小化や環境への影響の配慮、リサイクルへの配慮なども含めた包括的な考え方。

ネットワークシステムの根幹を支える通信機器



帯域制御装置
PureFlow® GS1



アナログ回線 IP 多重化装置
NN6001A